

還暦・古希・喜寿そして
傘寿談議
文・写真 (株)地域サービス顧問
永井 英彰

俎上の「地域」をどうするか

撫養新農研会員が会社引き継ぐ

撫養新農業研究会(岡部晃司、野田靖之共同代表)は県内外から会員60名以上を集め毎月最終週の木曜日に鳴門市・井上ホールで研究会を開いている。

6月の会合で野田代表が(株)地域サービスの25年間の実績と継承予定者、継承後の会社店舗の有効利用の仕方などについて説明した。社長の筆者にも一言をとの事だったので次のように話した。「私は俎上の鯉のようなもので、胸を張る立場にない。年が明ければ満80歳となるため、いくら元気でも後継者を決めずに社長を続けることは無責任だと考えた。公開で後継者を決めるとは聞いたことが無いが、若し、今回の継承が上手く行ったら、小規模企業や農地の継承にも応用できるのでないか。決まれば、私も当分の間会社に関与し後継者が軌道に乗ることを見守りたい。」

一人会社、決断早い

筆者は一昨年、後継者にした弟俊彰に急死されて再度社長に復帰した。そこで昨年秋、株式を筆者一人に集め、資本金を2000万円から2500万円に増資、合わせて300万円に減資した。目的の一つは会社に対しても貸付金を減らす事、一人会社にする。と株主が一人で良く、監査役が不要な上、向こう10年間、取締役会等を開催する必要もないというメリットがある。この手続に40万円以上の費用を要したが、会社をシンプルに整理してあつ

たため、今回の交渉では即断即決できる。

経理は6月末現在まで筆者の責任で、その後は後継者の責任と決めた。会社は借地の上に家屋を建てているため法定地上権を持つ。家屋の一部や駐車場を貸しているの、6月分までは筆者が処理、7月部以降分として預かった金銭は後継者に残した。

依頼は無かつた事に

7月11日、豪雨の中を旧知の司法書士事務所を関係者が訪問、用件を告げたが準備書類の書き方の説明が判りにくい。そして翌日、断

りの電話があつた。つまり、一人会社の制度はまだ新しく扱ったことがないのだった。そこで、一人会社を作ってもらった徳島市東出来島町、南司法書士事務所へ依頼した。実印と各自の印鑑証明書、会社の登記簿謄本、定款、会社の実印などを持参するようにとの事で、訪問後1時間余で事務処理ができた。旧知の司法書士に花を持たせるつもりが、恥をかかせたようでも申し訳なかつた。

筆者は将来いづれかの時点で店舗の家屋を撤去して地主へ土地を返す日も来ると考え、撤去費用も見積もってもらったら150万円ほど掛かる事が判つた。今回、承継者が現れたことでその必要は無くなり、少しは資金回収もできた。きつちりと終活ができたことに心から感謝している。できることなら、承継者のもとで(株)地域サービスが新たな発展を遂げ

て欲しい。

日野皓正ライブ

代表取締役退任登記を申請した

7月13日夜、北島町創生ホールで日野皓正ライブが開かれ、妻と同伴で



地域サービスの外側(上)と内側(下)



日野皓正のライブ(飛び入りも)



ライブの後サイン会(左端が日野皓正)

健康な狭庭

会社承継の話がほぼ纏まつた7月初め、徳島創生観光促進にかかると一般社団法人を立ち上げて欲しいという話が舞い込んだ。地域サービスの承継にケリが付きそうになったので、つい気分よく了解してしまった。まだ定款の案ができた段階であるがこちらもそれなりに大変だ。しかし、こちらは何かあれば代役いくらでもいるので気が軽い。

筆者の家庭は40年来、家庭から出る生ゴミは匂いが出る期間だけコンポサーに入れるが、そうでなければ庭に穴を掘ってそこに入れる。つまりは昔の「掃き溜め」である。それだけでなく、植木の選定をした時に出る落ち葉や小枝も塵収集に出すのでなく、木の根元に被せたり小山に積んだりしている。毎年、土地が肥えて、トマトやシン

は地場生えで勝手に育つし、一度植えたイチゴは蔓を伸ばして不揃いながら実を食べさせてくれている。メリットは生ごみを出さないので、塵袋をカラスが突く事も無く、落ち葉や小枝がマルチとなり雑草を抑えてくれ土地も肥やしてくる。引いては北島町のごみ焼却量を少しでも減らす事になっていれば幸いである。

若しかしたら、私達が進めている「剣山系の循環型農業」も、地場で生えるカヤを敷き込み農業をするのだから、筆者がやっていることと同じ考えで、昔からやっているのかも知れない。

些細な事ですが

その① 枯れたバラを剪定して親指に枯れた棘が刺さった。毛抜きで抜こうとしたがどうしても取れない。消毒だけして放ってお



庭の恵みトマトとモモ(左端)



庭に珍しいトンボ(7月中旬)



都市計画の勉強会(中央が香川宜子さん)



平成宮の酒造用井戸



コケ庭が美しい秋篠寺本堂(国宝)



喜光寺の本堂(重文)

たところ、周囲の皮膚が盛り上がり棘をひっくるめてポロリと取れた。人の治療力とは素晴らしいと実感した。

その② 昨年、ツバメがガレージの天井の真ん中に巣を作りかけた。糞を落とされたらたまらないので、入り口を閉めた。数日して開けたら、今度は側壁に巣を作った。こ

こは邪魔にならないので見守っていたら、5羽が無事に育ち巣立つて行った。今年も昨年の巣を再利用して同じく5羽が巣立った。ガレージの中ならカラスに襲われることも無く安全なのだろう。天井が駄目で、側壁ならOKかどうかとして判ったのだろうか。

その③ 4月末、剣山系関連のイルチ会合に出席した時、東京・大井町のホテルに泊まった。朝食のためエレベーターに乗ったところ、途中から勤め人と老夫婦が乗ってきた。勤め人は我先に下り

たが、老夫婦は筆者に先に降りよと勧める。ご遠慮なくと夫婦を先に降りてもらった。バイキングの食堂でも一緒になり、味噌汁を先に入れた老女が、それを筆者に渡してくれた。お礼を言ったが、そのみそ汁は何とも美味かったし、1日中元気だった。

その④ 6月21日、(株)ストライクがマザーズに上場した。公募価格は3440円だったが、初日は値が付かず翌日やっと6720円で引けた。この会社は中小企業の売買であるM&A仲介を業とする。会社が産声を上げ最初の講演会を札幌で開催したが、講師の一人が筆者だった。

日刊工業社の紹介で、(株)エヌテック(鳴門市)の会社継承について問題点などを話して欲しいという事だった。メールで上場の案内を受けたので、直ぐに荒井邦彦社長へお祝いの返信を送った。

その⑤

7月2日、徳島市国府町の喫茶店マイセンで「日本からあわストリー」が始まります」の著者・香川宜子医師と会った。香川医師が数年前に発案、経産省がプ

奈良へ研修旅行

6月18日、四国大学生涯学習センターの企画で、講座の受講生が大型バス2台で奈良へ研修旅行に出掛けた。最初は遷都1300年祭で行ったことのある平城宮。都が置かれた710〜長岡宮に都が移るまでの75年間を奈良時代という。日本庭

園の最初と言われる東院庭園見学から両親が徳島出身というガイドの説明を受け、大極殿、朱雀門、遺構展示館を歩いて回った。朱雀門前にあった工場はほぼ移転していた。

次は奈良市街地の北西にある秋篠寺。土師氏の末裔は菅原、秋篠両氏だが、ここは秋篠氏の氏寺とも言われている。2006年、長男悠仁様が誕生した秋篠宮家もここから名前を採ったよう

で、天皇家とも関連が深い。国宝の本殿は鎌倉時代の建立の一つで、正面5間、側面4間あり、屋根は寄棟造、本瓦葺き。堂内には重文の本尊薬師三尊像が安置されている。最後は奈良の都のほぼ中央にある喜光寺。養老5(721)年、行基菩薩によって創建され、古くは道真公にちなみ「菅原寺」と呼ばれていた。現存の本堂(重文)は室町時代に再建されたものだが、裳階(もこし)を付けた美しい復古建築。本尊は丈六の阿弥陀如来。境内に200鉢ある蓮が色付きかけていた。毎度のことながら、7回の講義の後で行く研修旅行は贅沢の極みだと感謝している。